

令和2年8月17日（月）

令和2年度・第二学期のスタートにあたり

校長 大井 俊博

生徒の皆さん、「おはようございます。」

「二学期は全校生徒が一堂に会しての始業式を」という予定でしたが、まだまだコロナ禍の影響で予断を許さない状況ですので、今回も紙面にて私からのメッセージをお伝えします。

短い夏休みでしたが、皆さん有意義に過ごしてくれたと思っております。

さて、本来なら今学期は本校の三重大行事の一つの「桜和祭」、高校2年生の「台湾修学旅行」など大きな行事の実施が予定されていきました。しかし、今のところ「桜和祭」は例年とは形態を変えて、各部・各団体などが日常活動の成果発表としてオンライン配信の予定、また「台湾修学旅行」は順延、ということに進んでいます。すべて、コロナの感染状況を把握しながらの決定を余儀なくされているということをご理解ください。また、今後の学習や部活動などについても、状況を確認しながら柔軟に対応していきたいと考えています。ただ、高校3年生においては、大半がチャレンジする大学受験は待つてはくれないので、受験生は、これまでどおり高い志を持ち最後まであきらめないで努力を継続して欲しいと願っております。

折角の紙面ですので、今日は、私が考える「人として生きていくために必要なこと」を述べたいと思います。全部で11の項目があります。

1：素直であること。（人の話を聞ける・わがままはダメ）

2：好奇心旺盛であること。（課題意識・チャレンジ精神を持つ）

- 3 : 忍耐力があり、あきらめないこと。(継続する力を持つ)
- 4 : 準備を怠らないこと。(用意周到、計画性がある)
- 5 : 挨拶や気配りができること。(人に対する思いやり)
- 6 : 柔軟性があること。(臨機応変な対応ができる)
- 7 : 夢を持ち目標を高く設定できること。(飽くなき向上心→高い志を持つ)
- 8 : 自分を律することができること。(自分をコントロールできる)
- 9 : 生涯、学び続けること。(自ら考え、学び、行動できる)
- 10 : 失敗を糧にできるパワーを持つこと。(ポジティブに考え実践する)
- 11 : 人を好きになること。(清濁併せ呑む^{せいだくあわ}の→人を受け入れる度量の大きさ)

以上、11項目の「人として生きていくために必要なこと」この言葉
を胸に刻んで、このコロナ禍の厳しい現実の中でも皆さん一人ひとり
は、たくましく生きていって欲しいと願っております。

次に、終業式の挨拶で紹介したシンガーソングライターの半崎美子さんの
「明日に向かう人」という曲の歌詞を思い出してください。(一部を抜粋)

前を向くそれだけでも 辛い^{つら}ことが時にはある

それでも進むことを あきらめないで

声をからして泣いても たどり着けない場所がある

それでも生きることを 信じることをあきらめないで

悔し涙を流した時 心の奥が熱くなった

嬉し涙を流した時 胸の奥が熱くなった

人間生きていくと辛いことに直面します。中でも、とてつもなく辛い時は自分一人で抱え込まないでください。そんな時には、家族、先生、友達など誰でもいいから話を聞いてもらいましょう。中学1年生、高校1年生にはまだなじみが薄いでしょうが、本校生徒の皆さんには、「悲しい時は共に涙し」「嬉しい時は共に喜ぶ」ことのできる「チーム昭和」という、温かくて優しい大きな支えがあります。様々な場面で「チーム昭和」を意識することにより、皆さんは一丸となって結束することができ、一人ひとりが真摯に精一杯の努力を継続していくことで、自身の自己実現にもつながっていくのだと思います。

結びに、今日から始まる二学期も、コロナ対策、熱中症対策を万全にすることで、一人ひとりが健康で、しかも自己実現を果たせるよう「チーム昭和」を合言葉にみんなで頑張っていきましょう。

以上で、私からのメッセージを終わります。